

新潟県剣道連盟会報

第 102 号

平成30年 1 月吉日

発行

新潟県剣道連盟

事務局 〒950-0916
新潟市中央区米山 5 丁目 1-25
小林ビル 4 階TEL 025-244-3481
FAX 025-244-3482
http://niigata-kenren.com

新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には平素から何かと協力を賜っており改めて御礼を申し上げます。

さて年頭に当たって昨年の事業総括を中心に触れてみたいと存じます。

まず年間事業計画に基づき諸事業は、関係各位のご努力によって各種会議を始め、講習会、段級審査、大会等適正かつ活発に運営なされましたことに感謝申し上げます。

次に、全国規模大会における各年代層の活躍をご紹介させていただきます。

○小学生……「全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会小学生の部」予選リーグにおいて優勝した岡山に僅差で敗れましたが、一勝一敗と大健闘しました。

○中学生……前記大会「中学生の部」で見事ベスト8に進出を果たす一方、「全中大会」において燕中学校女子が、二連覇達成を逃がしたものの準

一般財団法人 新潟県剣道連盟

会長 本間 厚太郎

優勝、同個人でも佐藤美空選手が3位に輝きました。

○高校生……北信越大会を突破して「愛媛国体」に臨んだ男子が堂々の3位。女子も5位とダブル入賞を飾り、大きな得点源となって県に貢献しました。また「インターハイ」では、新潟商業高校男女とも頑張り、女子が8位に進出しました。

○成人……「愛媛国体」成人男子で強豪福岡県に勝利するなど大健闘でした。また、全日本選手権県予選会の激戦を制して本大会に臨んだ坂爪優太選手は、一回戦で惜敗したものの、正攻法の剣風に高い評価を得ていました。

○壮年・高齢者……「全国ねりんピック大会」等に生涯剣道を志して参加し、団体・個人とも活躍・奮闘されました。

○居合道……「全国居合道大会」団体で準優勝、個人五段の部で草間大介選手が優勝するなど久しぶりの快挙

を成し遂げました。

これらの成果は、選手の努力は勿論ありますが、選手の選考から新剣連強化スタッフ等による的確な指導の下、短期間ながら動機・意識づけ等々、大きな成果を及ぼしたと思います。しかしそれ以上に日頃から、各地域や学校で地道に指導されている諸先生方の努力の賜物であります。また、剣道人口増加に向けた取り組みにもご尽力いただき、重ねて御礼を申し上げます。

剣道を志した幼少期から、剣道に目覚めた学童期、大会や昇段が待ち遠しい成人期を経て、生涯剣道の集大成ともいふべき技と人格を極めつつ、健康維持等目的の壮年・高齢期まで、あらゆる年齢層及び職種によって新剣連が構成されております。したがって、本年も新剣連としては特定事業のみに傾注することなく、厳しくなりつつある財源状況を勘案して、各年齢層・地域等に応じた諸対策を推進しなければならぬと思っております。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。結びに、今年も会員皆様にとって良い年でありまうようご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

剣道有功賞を拝受して

新潟市剣道連盟 佐藤 伸



十一月、全日本剣道連盟より剣道有功賞、拝受の栄に浴しました。私にとりましては身に

余る光栄でありこの上ない喜びであります。これも偏に新潟県剣道連盟ならび諸先生方、剣友のご配慮とともに、ご交誼を頂いております皆様方の懇情のお陰様でございます、厚く御礼申し上げます。

これを機に、私の剣道人生、64年間を振り返ってみたいと思います。私が剣道を始めたのは昭和二十八年二十歳の時からです。生家は農家でしたので、三男坊の私は家の手伝いをしなければなりません。ようやく私の役目も終わりに生家を出られたのです。剣道を始めた動機は、実は剣道七段という父がいたからです。父は農業のかたわら水原農業高校の剣道の先生をしていました。目標は父と同じ「剣道七段」と心に決して稽古に励みました。三十一年三段に合格。その年の四月、新潟交通株式会社バスの運転手として入社。会社近くの万代町生活の傍ら縁あって地元の万代剣士会、山田庚児先生のご指導を頂きました。幸いなことに新潟交通の社員には剣道初段、二段が十数名がいたのです。石川利一、佐々木観麓、高橋俊三、私、四名で剣道部を設立。社内でも練習をすることができるようになりました。お陰様で

大会 結果報告

その他の大会は
新剣連ホームページを
ご覧下さい

全国大会総合第2位

七年ぶりの快挙！

初出場の五、六段が優勝と二位

居合道部会

第五十二回全国居合道大会が10月21日、広島市で開かれ、都道府県対抗優勝試合で新潟県は第2位となり、四十五回大会（平二十二年新潟開催優勝・新潟県）以来七年ぶりの快挙となりました。特に五段の部で初出場の草間大介選手（光明館）が優勝、六段

私は昭和四十四年六段合格、五十年、父と同じ七段に合格し初心の目標を達成することができました。私は次の目標を全国大会出場と決めました。全国都道府県対抗剣道大会四回出場、全日本東西対抗一回出場、国民体育大会四回出場。

平成八年、六十三歳で後進の育成を考え大会出場を退きました。次の目標は何か。しばらく考えた私は、「剣道八段」を取ることに目標を定めたので

す。今度の目標は遥かに大きい、それには自分に勝つことが何よりも大切、身体作りの為にも近くのけや木の葉が茂る公園の外周5回のウォーキングを始めました。これは今も一日も休まず続いています。そして月一回は千葉の松風館・岩立三郎先生の道場へ八年間通わせて頂きました。お陰様で平成二十年に念願の八段に合格することができました。ありがとうございます。

の部でも初出場の大西恵選手（柏崎）が準優勝となったほか、七段の部では今井恒之選手（上越）が三回戦まで駒を進めるなど大きな成果を収めました。大会は47都道府県から五、六、七段代表選手1名が出場して段別トーナメント試合を行い優劣を競います。

試合は日本刀の使用が義務づけられており、剣道のように対戦相手と直接対峙することはできませんが、試合方法は、各段とも、対戦する2選手が赤・白それぞれのラインで囲まれた縦7m横3mの試合場に分かれて演武し、3人の審判が赤・白の審判旗で優劣を判定します。判定の基準は全剣連の「居合道試合審判規則」「同細則」に測り、礼法・作法や技の正確さはもとより、修行の深さ、目付けや気魄、武道としての合理的な居合であるかなど総合的な観点から判定します。演武は、礼法・作法を含めて技5本を6分以内で抜きます。技5本のうち最初の2本は古流、その後全剣連居合12本の中から当日指

定される3本を抜きます。演武が6分を超えたり、指定技を間違えると負けになります。優勝するには6試合を勝ち抜かなければなりません。

段別トーナメント試合は、最終勝者が優勝ですが、都道府県別成績は得点で計算されます。一勝すると（1点＋勝旗数×0・01点）が与えられ、優勝者が6試合をすべて3対0で勝ったとすると（6＋3×6×0・01＝6・18点）を獲得することになります。都道府県別の総合成績は、五、六、七段の得点の合計で決まります。新潟県の獲得点数は五段が6・17、六段が5・13、七段が2・05で合計13・4点となり、優勝した開催地・広島県（14・4点）に1点差（一勝差）と迫るものでした。

初出場・初優勝を果たしました！

光明館 草間 大介
（居合道五段）



この度、第五十二回全日本居合道大会・五段の部で優勝した草間大介（光明館）と申します。

初出場で初優勝を遂げられたことは偏に県剣道連盟、同居合道部会諸先生のご指導ご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

半年前4月29日の選考会で選手に選ばれてから強化練習6回、強化合宿1回、県外大会強化派遣など強化練習を重ねた結果が実り、図らずも優勝を勝

ち取ることができました。

一回戦シードで二回戦から出場しましたが、試合順が30番目となって、開会式から3時間も経っており、居合道部会からかけ付けていただいた介添の人と一緒に緊張感の中でのコンディション作りに細心の注意を払いました。試合は二回戦から準決勝の五回戦まですべて3対0で勝ち進むことができましたが、決勝戦は開催地・広島県の選手と当たり2対1でどうにか勝つことができました。地方大会には何度も出場しており、大会には慣れているつもりでしたが、全国大会という独特の雰囲気や県代表というプレッシャーは予



想をはるかに超えるものがあり、極度の緊張感の中で気力と体力のすべてを出し切って最高の栄誉を手にすることができました。

ご指導ご支援をいただいた皆様に改めてお礼申し上げます。今後はこの栄誉におごることなく一層精武精進努力をしていきたいと思っています。

第十二回 全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

とき：9月17日

会場：大阪府民共済SUPERアリーナ

▽小学生の部

監督 浜田 尚（小針小）

コーチ 内野 葉子

（県立はまぐみ特別支援学校）

三本 雄樹（小針小）

選手

先鋒 金田哲太郎（新発田市剣道連盟）

次鋒 生田佳次郎（鳥屋野武道館少年部）

中堅 高橋 怜暉（上通剣士会）

副将 松村 佑月（志成館道場）

大将 宮田 禄郎（共栄館道場）

・予選リーグ

新潟県 1―1 岡山県

（1―2 本数負け）

新潟県 2―1 沖縄県

結果一勝一敗で予選リーグ敗退

【観戦記】

台風の影響で開催が心配された今大会でしたが、例年通り無事開催されま

した。大会では、岡山県と沖縄県の三県による予選リーグとなりました。

一試合目は岡山戦。先鋒の金田が面を二本取られ苦しいスタートとなった。次鋒の生田は面返し胴を機会を捉えて打つも旗は上がらず引き分け。中堅の高橋は相面で一本勝ち。副将の松村が引き分け、1勝1敗の対戦で大将戦を迎える。大将の宮田は面や引き胴を中心に多彩な技で攻めるも、今一步及ばず引き分け。総本数一本差で惜敗でした。

二試合目は沖縄戦。先鋒の金田の面と相手の小手が相打ちになり、相手の小手に旗が上がるも合議の結果、金田の面が一本となり、そのまま一本勝ちを収める。次鋒の生田は引き分けるものの、中堅の高橋が出小手を取られて一本負け。副将の松村がここで引き分けたため、一試合目に引き続き一勝一敗のタイで大将戦を迎える。大将の宮田は試合開始早々に相面で一本を先取。二本目も良い機会を捉えさらに相面で面を連取、二本勝ち。2勝1敗でチームの勝ちが決まる。しかし僅差で岡山県が沖縄県に勝ったため、新潟県チームは惜しくも予選リーグ敗退となった。今年で新潟県としての参加は六回目となりました。結果としては予選リーグ敗退となったが、優勝した岡山県とはわずかに本数「一本」差での惜敗であり、全国の舞台でも他の都道府県に全く引けを取らず、堂々と戦っている姿がみられました。また試合の前後でお互いにアドバイスをしあったり、試合中は真剣な眼差しで拍手したりする姿

からチームの結束力を高めて本大会に臨むことができたと感じています。本大会は勿論、これまで仲間との深い絆をつくったことが今後のさらなる活躍に繋がることを願っています。最後に大会参加に向けてご尽力いただいた新潟県剣道連盟の先生方、錬成会でお世話になった道場、連盟の皆様、強化練習会にご協力いただいた新潟市剣道連盟、新潟市立小針中学校剣道部の皆様、そして保護者の皆様にご心より感謝申し上げます。報告にかえさせていただきます。（三本 雄樹）

▽中学生の部

監督 梅田 茂明（中之島中）

コーチ 佐藤 泰之（直江津東中）

選手

先鋒 栗山 一花（燕 中）

次鋒 佐藤 美空（燕 中）

中堅 長谷川大雅（直江津東中）

副将 安部 伸亮（小針中）

大将 石塚 哲太（下山中）

※先鋒・次鋒は女子、中堅・副将・大将は男子。女子は県大会個人1位、2位。男子は同1位、3位の選手で編成。

・予選リーグ

新潟 2（3）―0（1） 大阪 A

新潟 2（2）―1（1） 熊本

・決勝トーナメント

新潟 4（6）―0（1） 愛知

新潟 0（1）―2（4） 岡山

※ベスト8

【観戦記】

新潟は予選リーグ大阪Aと熊本と組むことになりました。一試合目大阪A戦は先鋒の栗山選手が幸先よく面を取って一本勝ち。次鋒戦・中堅戦も善戦しましたが一本がなかなか決まらず引き分け。そして副将では相手選手の猛攻を凌ぎながら打つ機会を覗いていた安部選手の相小手面が決まり新潟の勝ちが確定しました。

大将の石塚選手は面を先取したものの、取り返され引き分け。しかし強豪大阪チームに見事な勝利を収めました。予選リーグ二試合目は、優勝最有力候補の熊本戦です。今年度の全国中学校剣道大会男子個人戦で決勝を戦った九州学院中学校の生徒たちが登録されている手強い相手です。

先鋒の栗山選手は見事な相面で一本勝ち。次鋒の佐藤選手は出端面など一本になりそうな技があったものの引き分け。中堅の長谷川選手は、試合時間の後半で相手選手が簡単に面で出たところを見事な返し胴で一本勝ちを収め、新潟チームのリードで試合が進みました。副将の安部選手が引き分けでも新潟チームの勝利が確定するところでしたが相手選手の粘り勝ちで一本負け。相手の大将は全国中学校剣道大会個人戦で優勝した選手でした。取らなければチームの負けが確定してしまう状況のため、序盤から激しい技が次々と続きました。大将の石塚選手はこの猛攻に慌てず対応しながらも、打つ機会を覗いながら試合が進んで行きまし

た。試合時間も後半となり相手選手の焦りも見え、攻めが不十分な状況から技が出始めた頃、試合終了のブザーが鳴り新潟チームの勝利が確定しました。その瞬間、会場が響めいたことを今も憶えています。試合後の選手たちの表情はうれしさと自信に満ちていました。そこで「この勢いのまま入賞を目指し、このメンバーで歴史を刻もう！」と励みました。

決勝トーナメント一回戦の相手は愛知です。先程の試合の勢いは止まらず大差で勝つことができました。次の試合に勝てば新潟チームとして初の三位入賞。選手たちに力んだ様子などは見られず、いい状態で試合に臨みました。相手チームの二回戦岡山は、全国中学校剣道大会の開催を控え、数年前から県全体で技術力の強化図っています。結果は、善戦したものの惜しくも敗れてしまいました。

前日の練習試合から、選手たちに一貫して話したことは「自分の力を全て出し切ること」でした。選手たちは、最後まで自分の力を出し切り「チーム貢献」また「新潟代表としての責任」を果たしてくれました。本当に素晴らしい選手たちです。今後の更なる活躍を願っています。

最後に県剣道連盟の先生方、ご支援ご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございます。

(梅田 茂明)

第七十二回 愛媛国民体育大会

会場：愛媛武道館

・少年男子 三位

・少年女子 五位入賞

・成年男子 二回戦敗退

▽少年男子

・一回戦

新潟 4 (6) | 1 (1) 宮城

・二回戦

新潟 3 (4) | 2 (4) 熊本

・準決勝

愛媛 4 (8) | 1 (1) 新潟

・三位決定戦

新潟 4 (6) | 1 (1) 静岡

▽少年女子

・一回戦

新潟 3 (5) | 2 (2) 山形

・二回戦

愛媛 5 (9) | 0 (0) 新潟

▽成年男子

・一回戦

新潟 3 (5) | 2 (6) 福岡

・二回戦

和歌山 3 (5) | 1 (2) 新潟

選手名簿

少年男子

高橋 徹太 新潟商業高等学校

吉川 颯真 新潟商業高等学校

大濱 優輝 新潟商業高等学校

長岡 佳宏 新潟商業高等学校

須田 友紀 新潟明訓高等学校

少年女子

藤田 有海 新潟商業高等学校

古畑 肖佳 新潟商業高等学校

長谷川瑠依 新潟商業高等学校

高橋知沙都 新潟商業高等学校

近藤 智穂 新潟商業高等学校

成年男子

坂爪 優太 三条東高等学校(教)

西野 哲哉 新潟県警察

松村 暁広 新潟県警察

高嶋 純一 上越市役所

樋口 秀夫 (株)樋口水道

監督・コーチ

少年男女 監督

藤塚 直 新潟商業高等学校(教)

少年男女 コーチ

永原 拓己 六日町高校(教)

志村 康浩 新潟商業高等学校(教)

杉林 成博(公財)新潟県体育協会

成年男子 監督

高嶋 純一 上越市役所

成年男子 コーチ

竹内 知宏 新潟商業高校(教)

総監督

佐藤 好美 新潟県警察

愛媛国体総括

「新潟県魂ここにあり！」

総監督 佐藤 好美



平成29年度笑顔をつなぐ愛媛国体は10月1日から愛媛県立武道館で開催された。一回戦成年男子は福岡

県、少年男子は宮城県、少年女子は山形県との対戦であった。

成績については成年男子は一回戦、

強豪福岡県に勝利したものの二回戦和歌山県に敗退した。少年男子については準決勝で愛媛に敗退したものの三位決定戦で静岡に勝利し、第三位に入賞。少年女子は準々決勝で愛媛に敗退したものの第五位に入賞しそれぞれ新潟県の天皇杯得点獲得に大きく貢献した。

結果を見て書くわけではないが、出発前に成年、少年男女国体選手壮行稽古会を亀田総合体育館武道場で開催したが、その際、一人一人のやる気に満ちた稽古、態度を見て総監督として「やってくれるんじゃないか」という感じを受けたのは確かである。壮行稽古会の最後に国体選手を代表して、新



愛媛国体受賞式

講習会の報告

「全剣連社会体育指導員養成講習会」に参加して

(初級)

新潟市剣道連盟 齋藤キミ子



今まで、剣道が上手になりたかった！昇段したい！という考えが先行していた、剣道の理念、人間形成ということを実践に考えたことはそれ程ありませんでした。それでも自分なりに礼儀作法、相手に対するあり方を学んで来たつもりなのですが、この社会体育講習会が新潟において開催することを知り、改めて自身の剣道の基本や剣道理論について考え直す良い機会であると考え参加することにしました。

不安な気持ちで受付を済ませると知っていた先生方が多く心強く感じました。基本の実技指導、座学では剣道の歴史、特性、指導法を学びました。剣

道商業の高橋徹太選手が決意表明をした際、「まさに戦場に向かう気持ちです」という言葉に参加者一同に心強さを感じた。各種別とも一回戦の相手は、強豪チームであったがチーム新潟としてお互い必死で応援しあった。本年度の国体は、新潟県各種別とも気迫の勝利だったと思う。特に少年男子の熊本

代表九州学院チームからの勝利に対しては特に大きな拍手を贈りたい。

結びに、大健闘された国体出場選手に心からお礼申し上げるとともに、長期間にわたり応援して頂いた県内剣道関係者に心からお礼申し上げます。監督の観戦記とします。

道指導の心構えで「竹刀という剣は相手に向ける剣であると同時に自分に向ける剣でもある」とありますが、そこに至るまでの心のありかた、敬う心、相手も生かして自分も生きる。構えという「体」から「心」へと至る方向性、これが修行なのか人間を作り上げていくのかと思います。理法を学ぶということとは人間形成になるんだと今更ながら理解したわけです。今回を起点として道を見つめ直し修練して行きたいと思いました。懇親会では講師の先生方の貴重なお話、また他県の方との剣道談義、部屋では楽しい女子トーク！と緊張感と楽しさのある三日間でした。帰りの車を運転している時は心が晴れやかになっているのを感じました。



今回は愛媛国体少年男子の二回戦、熊本との大将戦で、九州学院・岩切勇磨選手に一本勝ち、そしてチームに勝利をもたらした「高橋徹太」選手にスポットを当ててみました。岩切選手といえば、インターハイで個人優勝、そしてその前日には試合時間延長入れて50分20秒に及んでも決着がつかず翌日に再試合という死闘を制した選手です。高橋選手は今回で二回目の試合だったそうです。

国体の重責を共に乗り越えた仲間へ感謝！

新潟商業高等学校 高橋 徹太



私は、東日本大震災で被災し、新潟県柏崎市に避難して参りました。当時小学校五年生に住んでいましたが、この新しい環境の中で一番最初に思ったことは、小さい頃から習っていた「剣道を再開した

い！」というただその思いだけでした。そして二年が経ち、次第に「もっと強くなりたい！」という思いが日に日に増してくるのを感じていました。そんな思いを知ってか家族も賛成してくれ新潟市に引っ越すことになりました。私は小針中学に転入することになり、全中出場を目標に来る日も来る日も稽古に必死になって取り組みました。そして三年の夏に団体出場を果たすことができました。そして進学です。私は迷わず新潟商業高校に決めました。全国大会に出場するだけではなく、全国で勝てるようになる為にはこの学校しかないと思ったからです。

一年生の秋、全国選抜大会で五位に入賞し、優秀選手賞を頂き、自分にも結果がついてくるようになり内心うれしい気持ちでした。しかし、続く夏、そして秋の県大会では新潟明訓高校に敗れ、心の底から悔しい思いをしました。情けなさや悔しさで稽古にも身が入らない自分がいました。しかし、三年最後の夏、これではいけないと気持ちを切り替え、私はとにかくベストを尽くすことを誓い必死で稽古しました。

そのかいあってか県大会を勝ち抜き、個人、団体共に全国総体に出場を決めることができました。全国では残念ながら団体は予選敗退となりましたが、個人ではベスト16となることができました。

その後国体選手にも選ばれ、愛媛で行われた大会ではそれまで雲の上の存

在と疑わなかった強豪「熊本」に逆転勝利しその勢いで倒したかった地元「愛媛」にこそ敗れはしたものの、決定戦では静岡を破り、少年男子新潟は三位となることができました。共に闘う仲間を信じ、チームの勝利を手に入れたこの感激はきっとこの先も私は生涯忘れないでしょう。

私はつくづく新潟に来て良かったと思っています。剣道を通じ、また剣道以外の人たちも含め、沢山の素晴らしい友達ができました。色々な場面で楽しく剣道ができ充実した時間を送ることができたのは間違いなくその友達のおかげです。そして何よりも剣道を私に教えてくださった先生方のおかげです。そして両親、家族のおかげです。今は感謝の気持ちで一杯です。この気持ち忘れずこれから先、新潟の剣道界に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思っています。



地域通信



新潟西剣士会創立二十周年・仁智館道場創立十七周年記念剣道大会が開催されました。

会場 新潟市立西川総合体育館
平成29年11月25日(土) 練成大会

11月26日(日) 記念剣道大会
そんな中、佐藤仁館長と大会ゲストの栄花直輝八段にお話を伺いました。

——佐藤館長このたびは誠におめでとうございます。佐藤館長の一番の原動力となっているものはなんでしょう？

そうですね、剣道を通じて子供達の成長を観れることでしょうか。我々は剣道を通じてしか子供達と接しない訳です。その過程において心身共に成長する姿が私の原動力となっている気がしますね。

——二十年前と比較して子供達への指導などに対し何か変化はございますか？

二十年前は自分の子供と同世代の子たちを指導していた訳ですが今は言わば「孫」の世代と接している訳ですね(笑)。そんな中で最初は入会してくれて剣道をしてくれることが嬉しくて、そして楽しかった訳です。しかし、段々と自分の中に「勝たなきゃ駄目だ!」「勝たせたい!」と欲が出て来る訳です。しかしやっぱりそれはあまり良くないですね。子供達が上達しな



仁智館道場 佐藤仁館長

いのは自分の指導が至らないのにそれを忘れて自分自身が熱くなり過ぎていたんですね。ですからそこから又、反省しまして今はともかく子供達が楽しく厳しい中にも剣道が続けたいと思えるような指導をしたいと思っています。ですから今も昔も指導の中身は特に変化はございません。

——剣道で一番大切にしていることは？

うちの道場訓の第一番目に来るのが「文武両道に励みます」というのがありますが、いつも子供達に言うのは、「剣道だけ強くなっても駄目なんだよ!」と。いわゆる心ですね。相手を思いやる心が育たなきゃ駄目なんだよ!と言うんです。

剣道を続けるには確かにある程度は強くなきゃ続けられないという側面もある

りますが、それだけではなく「心」の部分をしっかり育てていきたいと思っています。今の時代だからこそですね。

——栄花先生とのご縁は何かありましたか？

さかのぼると二十数年前になるのですが私は栄花先生のファンだった訳なんです。ところが私以上に家内がファンでした(笑)。日本武道館に道場の子供達を見学に行ったら時に、たまたま栄花先生とその時にお会いしました。「剣道教室を新潟でやってください」と申し上げ、ずっとお出でいたいただきたいとお願いしていたんですね。ところが相手は日本のトップクラスの選手。世界の栄花先生。忙しくてなかなか



左から 浅原行雄先生(白根)、栄花先生、佐藤三智子先生、佐藤館長 談笑風景

か来て下さるチャンスも無く難しいだろうなあと思っていたんですね。
ところが十周年をやる時に改めてお願いしたところそれが快く引き受けて頂きまして：正直私たちは信じられなくて（笑）。

その後、栄花先生が指導されている少年剣道の合宿に来ませんか？というお誘いがあり子供たちとお邪魔させていただいたんですね。その時、DVDの上映があり、ご自分が手塩にかけて育てた中学生がここを巣立つという中で、それをみて先生が涙を流しているんですね。我々以上に本当に愛情を持って育てているということに感激しますますファンになりました。

栄花直輝先生に引き続きインタビュー
させていただきます。

——剣道を始めたきっかけは何ですか？
喜茂別町（北海道）は昔から剣道が盛んでして「ぜんちょうさん」と呼ばれていた町長さん、そして兄、自然にはじめましたね。小学校一年生からです。

——これから剣道を始める人に、また保護者の方に何かアドバイス等ありましたらお聞かせください。

剣道は本当に楽しいということをまず伝えたいですね。そしてずっと続けることによって楽しさは倍増するよってことを初心者の子には伝えたいですね。



山となった揮毫依頼の
色紙を前にする栄花直輝八段

——今までの稽古の中で一番辛かったのはいつだったでしょうか？

どれという時期はないんですけど、苦しい時ってやりがいのある時だったりしますし、厳しさと楽しさってのは表裏一体というか…。今も正直なところ苦しさもあります。栄花直輝というイメージを皆さんお持ちだと思いますが、体力が落ちていく自分がいま。皆さんの期待にどう応えるべきか、どう維持向上させていくべきなのかに考えています。また、各種大会等でただ勝つだけではなく良い剣道で勝利しなくてはいけなく強く思っています。毎日が厳しく、でもそれを求められていることが楽しくもあり、どこが一番辛いということはないですね。それは多分これからずっと続くと思います。

——人間ドキュメント「ただ一撃にかける！」はあまりにも有名ですが2003年イギリス・グラスゴーで行われた第12回世界選手権の決勝戦（キム・キョンナム選手）での代表戦で勝負のかかる一番で放った「片手突き」は最初から決めていたのでしょうか？

はじめに心境的にはまず、世界選手権、日本の剣道界から代表戦最後の最後に出させて頂くにあたり「栄花！」と言われた時には本当に嬉しかったですね。



よく通る声で、
打突の機会などを指導する栄花先生

ます。そして感覚的に韓国の選手は一般的に「突き」が嫌いだということは頭の中にもありました。キム選手は間合いの間隔も上手いことも当然知っていました。があの時は試合が進む中で何かひらめいたんですね。実は最後の突きははっきりとしたピンポイントで見えたんですね。技を仕掛けると彼は必ず（癖で）やり返すんです。ですからわざと竹刀を表から払ったんですね、そうすると払い返してくる。その読みですね。駆け引きです。払った後に構え直しますね、その瞬間まさにあの絶妙なタイミングが「片手突き」に繋がったと思っています。

栄花先生は、終始笑顔で話され、身振り手振りでもその場の臨場感をお話しいただきました。ぶしつけな質問にもお答え頂きありがとうございます。また佐藤仁館長、佐藤三智子副館長にはお忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございます。
翌日行われた大会でも県外チームも招き、成功裏に終わってお疲れ様でした。今後の益々の道場のご発展、栄花先生のご活躍を祈念致しております。

（聞き手 天井俊明）



愛媛国体監督・コーチ 選手招聘稽古会を実施して

十日町市剣道連盟理事長 **根津 勝**

十日町剣道連盟（会長 田川正幸）

では去る12月2日(土)なかさとアリーナ（十日町市）において、愛媛国体 監督・コーチ・選手招聘稽古会を実施しました。

◎講師（愛媛国体新潟県代表）

総監督 佐藤 好美

コーチ 竹内 知宏

選手 坂爪 優太 西野 哲哉

高嶋 純一 樋口 秀夫

事務局 天井 俊明

この企画は当連盟の樋口秀夫選手が都道府県対抗剣道大会ならびに国体代表として出場を果たしたことから、県を代表する選手から地元の子供たちが指導を受けることで競技力のアップと今まで以上に剣道に親しみを得的機会を持ったかどうかという案で選手団に打診・快諾を得た事で実現しました。

また地元のライオンズクラブからはこの趣旨への賛同で後援を得ることになりました。実施にあたっては地元（十日町市、南魚沼市、魚沼市、津南町、小千谷市）の小・中・高校生、一般愛好者に参加を呼びかけました。

当日は、田川正幸会長の居合の公開演武、選手団の模範稽古からスタートし、坂爪優太選手（午前）西野哲哉選手（午後）からの指導を中心に行いました。併せて選手と子供たちとの立合



田川会長（居合道七段）による公開演武

い稽古、合同稽古と貴重な時間を過ごしました。子供たちは時間の合間をみて選手にサインをお願いしたり、一緒に写真に納まる等、非常に良い思い出に繋がったのではないかと思います。県のトップクラス選手からいろいろと指導を受け、正しく強い剣道を印象づけたのが印象的でした。

佐藤好美総監督をはじめ竹内知宏コーチ、講師の皆様からはこちらの要望をいろいろ取り入れて実施・進行にあたっていただき、子供たちにとって大変有意義な内容となったことを厚く御礼申し上げます。このように一同に会した多くの選手に指導を受ける機会は将来を夢見て剣道をやっている地域の子供達にとっては大きな励みになるものと思います。この子供たちが少しでも剣道を始める仲間を増やし剣道の

良さが広まっていくことを願って報告いたします。



総勢 60 名、なかさとアリーナに集合

原稿募集

広報委員会では、地域通信・短信のコーナーの原稿を募集しています。支部同士での合宿交流や稽古会、練習試合、地域に根ざした伝統の大会など、活動状況などをお送り下さい。

新潟県剣道連盟のQRコードです。
ご利用ください。



編集後記

全剣連の剣道普及キャラクターが決まりました。名前は「ぶしし」。
なかなかいいネーミングですね。蹲踞は苦手ですが、現在、足さばきを修行中とのこと。「くまもん」や「ふなっしー」と肩を並べるくらいに皆に愛され剣道の普及に活躍してくれることを期待したいと思います。

剣道の良さを子供達に知ってもらい人数を増やしたいと考えている中で全剣連の「剣道の良さ」を普及する事業のポスターに目を通してみました「凛」として「礼儀作法は日本の宝」などの言葉に心が沁みるのは剣道関係者だからでしょうか？ いや、このフレーズなら親御さんを中心に共感・理解を得られるに違いない。「不易流行」の中で剣道の良さを伝える手段は時に応じて変えていかなければならないと思います。

では、剣道における不易（時を経ても変わらないもの）とは一体なんだろうか……やはり「剣道の理念（剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である）」に尽きるのではないだろうかと改めて気づかされた次第です。本年も宜しくお願い致します。

（TSUMARIの侍 ね）

